

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503908		
法人名	(株) じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花上野幌館		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条4丁目2-1		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

二階のリビングの窓から見えるイチョウの木が、春には小さな葉をつけ、夏にはその葉が青々と繁り、秋には黄金色に輝き、冬には葉が落ち遠くの山々まで見透せ1年中季節感を感じております。春にはホテルでランチ、夏には館の駐車場でバーベキュー、秋には滝野公園で紅葉狩りをして外食、冬には大型バスで大通り公園のイルミネーション見学と1階2階合同で季節に合わせた行事を楽しんでいただいております。家庭的な雰囲気を大切にし、町内会行事にも参加し、ボランティアの方にも定期的に来ていただきながら心地よく生活出来ますよう支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503908-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番おおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 2月 20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掘りこんでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掘りこんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とケア理念があり、毎日ケア理念より1つ選び今日の目標として、介護日誌に記載し一日の終わりに、達成度を記入し実践している。職員の名札の裏面にも、理念を記載している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りに、バザーを出店し、売り子としてご利用者様にも参加していただいたり、町内清掃に参加したり、散歩時には、積極的に挨拶しお庭のお花を見せていただいたりしている。町内会主催のご近所の顔合せ会にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々よりの、見学希望・問い合わせ等に対応している。行事への参加も呼びかけている。運営推進会議でも、認知症の方の理解や支援の方法をお話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに、運営推進会議を開催し、町内の方々、ご家族様、消防団の方々、民生委員、包括支援センター等の参加があり意見交換をしています。議事録はご家族様に送付しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当者と、気軽に連絡がとれ、相談したり協力関係を築くようにしています。介護保険の書類の手続き等で解らない事があったときには、相談しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止のマニュアルを作成し、全職員が社内研修で、身体拘束についての研修を受講している。カンファレンスでも話し合っている。玄関の施錠は、夜間のみである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や内部研修で、虐待や身体拘束について学びカンファレンスでも話し合い防止につとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はで成年後見制度について研修を通じて学ぶ機会があり知識の吸収に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、本社職員が対応し重要事項説明等で、疑問が生じないよう十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で、意見・要望を聞いたり、来訪時にも玄関にご意見箱を設置し要望等を聞き職員が共有し運営に活かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のカンファレンスに、教育課長の出席、時々社長も出席し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常業務の中で職員から意見や提案を聞き、ケアや行事の企画等の運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境作り、チームワーク作りに努めている。職員個々の希望を取り入れた勤務体制作りに努めている。職員と個人面談をし職員個々の努力や実績、勤務状況を評価し、さらに資格に応じた手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社でのスタッフ研修には、全職員が参加できるようにしている。カンファレンスで内部研修を行っている。外部研修にも参加し、ステップアップに心がけている。また、職員のスキルに応じた研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区のグループホーム連絡会の研修会が、年1回行われるが準備や当日のお手伝い等で顔をあわせる機会がある。他館の管理者と、ネットワークができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、入居後に、ご利用者様と話す機会を多く取るようにし、不安要望等に耳を傾け、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談により、ご家族様の要望を聞き、話し合いを行い、入居後も不安を取り除く様、意見要望等に耳を傾ける信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様が、必要としている意見や要望をお聞きし、必要に応じ支援内容に役立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ること出来ないことを、見極めお互いに寄り添い暮らしを共にする者同士役割りのある生活を築いている。ご利用者様に身体状況に応じ清掃や料理作り、食事の後片付け等のお手伝いを行ない参加できるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や、体調不良の時には、ご家族様との連絡を密にし、ご利用者様をご家族様と共に支える関係を築いている。面会で日常生活の報告、また、体調不良時での受診内容の説明等きめ細かな対応を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が、地域の老人クラブのカラオケサークルに参加するときは、送迎をしている。ご家族様やお友達からの電話や、来訪の際にはスムーズに対応し穏やかな雰囲気です接する様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通じ共通の話題、関わり方を模索し、ご利用者様同士が楽しく過ごせる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者様の体調の変化の相談を受け、ここにいらした時の対処方法等を、お知らせしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様と話す機会を設け、希望を聞くようにしている。希望や意向は、職員間で共有している。ご利用者様一人ひとりの性格や特徴を考慮し寄り添う事で思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報よりいままでの生活状況を把握している。また、ご家族様・ご利用者様から生活歴をお聞きし、馴染みの生活に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調チェック表、朝夕の申し送り等で、ご利用者様の体調を把握し、その日の出来そうなことに挑戦していただけるよう努めている。輪投げやボーリング等体を動かすことが無理の様であればぬり絵やパズル等座って出来ることを行なっていた。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、個々のモニタリングをし、職員間で話し合いケアに取り組み3ヶ月ごとケアプランを作成している。訪問診療時に、ご利用者様の様子を伝え、薬の処方をしていただいている。面会時に、ご家族様の希望等をお聞きしたりしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の様子を記録し、体調チェック表に水分量・食事量・排泄状況・バイタルチェック等も記録し情報を職員間で共有し介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老人クラブのカラオケサークルに参加するご利用者様の送迎を行っている。買い物に行きたい等の希望があったときには個別対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで月1度、ナツメロや童謡を歌いに来て下さる方がおり、ご利用者様は、昔を懐かしみ一緒に歌っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様・ご利用者様と相談し納得された医療機関と契約している。月2回の往診を受け、24時間対応で、いつでも相談支持を受けることが出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回本社看護師による健康チェックをうけている。ご利用者様の情報を伝えアドバイスを受けている。看護日誌はいつでも見られるようになっており職員で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、ご利用者様の日常生活の情報を提供し、情報交換や相談に努めている。往診の医師との情報交換も密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、ご家族様・ご利用者様の望む医療望まない医療の希望をとりご家族様・医師・グループホームが共有し支援に向けるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ研修や内部研修等で、訓練を受けている。マニュアルも、作成している。マニュアルはスタッフルームにありいつでも見る事ができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回避難訓練を実施し消防署の指導を受けている。地域の消防団の協力も得ている。町内会の方々も、緊急時の連絡網に記載し協力していただけるようになっている。スプリンクラーを設置し非常食も用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮した声かけをし、人生の先輩としてプライドを傷つけない声かけや対応をしている。声かけ等日常業務の中で職員同士注意するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムや食事・おやつの時間等には、職員も同席し一緒にお茶をのみながら会話し思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お部屋で編み物をする方、テレビを見る方、足の運動のためウォーキングマシーンを使う方等、その方のペースと体調に合わせて自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度訪問理容を、利用している。ご利用者様の好きな色等を把握し、洋服選びの時など一緒に選んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえをさせていただいている（もやしのひげとり、しめじさき、にんじんやごぼうの千切り、大根おろし等）。今年にはしん漬を職員と一緒につくりました。洗い終わった食器を拭いたり、食器棚にしまったりしていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、毎食後確認し記録している。水分量が少ない方には、ゼリーをお出しし水分量確保に努めている。栄養士によりカロリー計算された献立である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを、声かけしている。介助で行う方、声かけ見守りで行う方、自立されている方と一人ひとりの状態に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録から把握し、一人ひとりに声かけトイレ誘導を行なっています。2時間おきに声かけしたり、食事前に声かけしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調チェック表で排便状況を把握している。毎日、廊下歩行・肛門引き締め運動を行い、水分量確保にも努めている。腸（お腹）をさする。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴をし、体の清潔だけでなく気持ちも大切にしています。ご利用者様の希望に沿うよう入浴時間の調整を行なったりしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり就寝までの時間を、自由に過ごしている。就寝前には、居室内に濡れタオルを干し加湿に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋を、職員に回覧し、目的・副作用・用法・用量を把握し確認印を押印しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、カラオケ・編み物・お手伝い（食器拭き下ごしらえ）等役割のある楽しみのある生活の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には、近所の公園や雪印のパラ園へ散歩に出かけてます。花見、夏祭り、もみじ狩り、イルミネーション見学と戸外に出かけてます。地域のカラオケサークルへの参加の支援もしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様は、基本的にはお金は所持していません。夏祭りの時には、おこずかいを持っていただき自由に買い物を楽しんでいただきました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合せ電話出来るように支援してます。地方に住んでいる息子さんより届けものがあった時等電話をかけお礼を伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、自然採光が入り、いつも明るく清潔である。四季折々の飾り物に、変化を持たせ季節感をだしている。出窓には、鉢植えを置き花や観葉植物を楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が、心地よく過ごせるようリビングの席を考慮している。ゆっくりと過ごせる様、ソファも用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやダンス・テレビ等馴染みの物や、鏡台・ラジカセ等使い慣れた物を、置いている。写真等も、壁に貼っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり・トイレ・浴室・洗面所等大きく見やすく表示している。居室前にも表札を掲げている。		